

あいむ柏崎

— ひと ひと 女と男 共につくる希望の未来 —

令和3(2021)年7月5日

第5号

発行 | かしわざき
男女共同参画推進市民会議

寄稿



アンコンシャスバイアス(無意識の偏見)について ～多様性を認め合う社会実現に向け、私たちに求められること～

新潟産業大学 教授 大石 友子 さん

世界的な感染症流行の下、生き方や価値観の変換を求められる時代です。今日は求められる価値観の大転換のひとつ、アンコンシャスバイアスについてお話ししたいと思います。

聞きなれない言葉かと思いますが、「無意識の偏見」という意味で、人はそもそも人種や宗教、性別などに無意識のうちに偏見や思い込みを持ってしまふことがあり、それを克服し多様性を認め合う社会を実現しようという取組みの総称です。世界中で取組みが本格化していて、日本でも連合の行った調査によれば、95.5%の人が認識していると回答。中でも、女性に対する性差別意識が大きな課題として浮き彫りになっています。日本の男女格差は世界156カ国中120位! 先進国中、最下位という不名誉な立ち位置にあるのです。このことは特に、女性が社会で活躍する上で、能力を発揮する場で大きな障壁となっていて、女性管理職比率の低さなど事例は枚挙にいとまがありません。経営学の立場から見ても、労働生産性の低迷が顕著になるなど早急に手を打つ必要があります。

では、私たちは今、多様性を認め合う社会に向けて何をすべきなのでしょう。個人では思い込みや偏見に対して情報を集めることなどが求められます。組織としては、システムの見直しなどが有効です。ディズニーリゾートは、今春からこれまで使ってきた園内放送の「レディース・アンド・ジェントルマン」を、「ハローエブリワン」に変えました。性別の要素を取り除いたのですね。海外でも、米国アップル社が音声アシスタント機能「シリ(SIRI)」で女性に限っていた音声を両性に拡張するなど、日ごろから無意識のうちに刷り込まれてしまふ性差意識を排除する試みが世界的に広がっているのです。

日本の地方でも変革が始まっています。兵庫県豊岡市では今年から女性が働きやすい環境整備に向けて10年計画の「ジェンダーギャップ解消戦略」を掲げ、経営者が性差別解消に向けてリーダーシップを発揮している先進的な事業所をバックアップするなどの取組みに着手しました。有能な女性たちを地域の担い手として育成しようという構想です。

アンコンシャスバイアスは日ごろの些細な事から見直すことがとても大切です。私自身も思い込みに気づき、反省することがまだまだ少なくありません。自分の中に潜む偏見や思い込みに気づくことからスタートしましょう。



令和3年5月22日(土) <於: 柏崎市役所多目的室>
大石友子さんを講師にお招きし、公開講演会を開催しました。

～男女共同参画社会は、誰もが住みよいまちづくり～ 市議会総務常任委員会の皆さんとの懇談会

令和3年2月2日(火) 会場／柏崎市役所多目的室 参加者18人(市議会議員9人・会員9人)

男女共同参画社会の実現に向けて、現状と課題を共有することを目的に市議会の御理解をいただき開催しました。

話し合いのテーマ ①「働きたい女性が働き続けられるためには？」

普段感じていること

- ・男性が多いと思われていた様々な分野で、女性の活躍を目にする機会が増えている。
- ・女性が活躍する場が増えている背景には、労働力不足の中で女性に頼る社会現象がある。
- ・女性の多い職場は非正規の方が多い。(経済格差の要因にもなっている。)
- ・未満児を持つ母親やシングルマザーは、保育環境が厳しく安心して働けない。(病児保育、病後児保育が縮小している。)

取り組むべきこと

- ・誰もが働きやすい環境づくりのための支援策や仕組みを必要な人(働く人、事業者)にしっかり届ける。
- ・出産、育児、介護のサポートの仕組みづくりをさらに充実しなければならない。
- ・以前は、個人が職場の環境条件に合わせていたが、昨今では企業側が個人の生き方(暮らし方)に柔軟に合わせていかないと生き残れない時代になってきている。もっと、企業への働きかけが必要ではないか。



話し合いのテーマ ②「政策決定の場に女性が参画するためには？」

普段感じていること

- ・柏崎市第五次総合計画策定委員の女性登用数(審議委員41.7%、分科会全体42.2%)を見ても市は、頑張っている。
- ・女性活躍は、男女の差別なく責任を担うことなので、男性の生きづらさも軽減できると考えられないか。
- ・女だからとか男だからではなく民主的な市政や地域の運営ができればと思う。しいて言えば家庭も。
- ・一人ひとりが自立した社会人としての自覚をもって、様々な場面で意見を述べるのが大切ではないか。



取り組むべきこと

- ・企業へは、持続可能な事業展開のために方針決定の場に女性を参画させるメリットをアピールする。
- ・企業もそうだが、議会も地域、町内会も人材の活用と多様性を認め合うために女性登用は必要なこと。男女比率を割り振ることもありか。
- ・地域や町内会では戸主単位の考え方で運営されている。その中でも活躍している女性がいて、その人をロールモデルとしてアピールして変えていくこともできる。

懇談会の最後に...

男女の機会均等のもと個々の能力が正当に評価される社会にすべきである。そのために市民一人ひとりが男女共同参画を理解したうえで行動することが、優しいまち・柏崎へつながっていくのではないかとその思いを共有した。



★ご参加いただいた総務常任委員会のみなさん(敬称略)

相澤宗一・春川敏浩・布施学・笠原晴彦・山本博文
持田繁義・飯塚寿之・若井恵子・上森茜



私たちは柏崎の「ハッピー・パートナー企業」です

新潟県では、男女が共に働きやすく、仕事と家庭等の両立、女性従業員の育成や登用などに積極的に取り組む企業を「ハッピーパートナー企業」として支援しています。



柏崎市ホームページ
ハッピー・パートナー企業募集

風通し良く

コンタワークス株式会社 東本町2-5-32

コンタワークス株式会社はユニフォームの納入販売業者です。服装選びという視点から職場の環境づくりをお手伝いしています。

弊社では「良い人間関係」が全ての土台と考えます。常に最優先事項であり、そのために毎朝15分の朝礼と月1回の面談を継続しています。昨日・今日・明日はどんな一日なのか(だったのか)をみんなで共有すること、お仕事の振り返りから自身の成長ぶりを確認してもらっています。時間内に自分の力を発揮し、お役立ちを実感できるような職場として、小さな超優良企業を目指します。

この夏も風通しの良い環境づくりに是非お役立て下さい。

(代表取締役／中村 昭夫さん)



代表取締役
中村 昭夫さん

「～社員 一人ひとりの輝きを生かして」 株式会社 飯塚鉄工所 半田3-15-16

“提案型技術集団”を企業理念とし、社訓である「挑戦・熱意・奉仕」のもとに、創業から60年以上培った製造技術と新しい技術を融合させ、分野を問わずお客様のニーズに挑戦し、熱意を持ってチャレンジし続ける企業を目指しています。

また、製造業というと、男性のイメージが強いと思いますが、全体の4割を女性が占め、製造現場で女性ならではのきめ細やかな技術で活躍しています。社内教育・資格の取得にも積極的に取り組み、資格取得では、補助金制度もあります。

年次有給休暇取得率は100% 年次有給休暇平均取得日数は11.8日

所定外労働時間月平均は14時間

毎週水曜日はノー残業デーを実施。子育て世代が多く、短時間勤務や男性社員の育児休暇取得者もいます。福利厚生では、提携美容院の補助や、バランスの良い食事を考え、忙しい時、食べたい時に買える食事サポートがあります。一品100円でおかずが購入できるシステムで、お昼に食べたり、夕食用、お弁当用に利用するなど用途は様々ですが活用する方もいて、仕事と家庭の両立を図っています。

女性管理者もあり、男女問わず、一人ひとりが輝いて働ける職場づくりを心がけ、Work Lifeバランスを大切にしています。(総務部／飯塚 治子さん)



代表取締役
飯塚 肇さん

幕末期の女医 宮川 勢以

数年前、医学部入試における女子学生への差別が話題になりましたが、同じようなことが昔もありました。日本初の国家資格を持った女性医師といわれる荻野吟子は、医学校に通い優秀な成績を残しながらも、前例がないという理由で「医術開業試験願」を2年連続で却下されました。吟子が開業試験に合格したのは明治17年（1884）のことですが、開業試験制度がなかった時代から、吟子をはじめ医師として従事していた女性たちがいました。

柏崎にも、幕末から明治にかけて宮川勢以という女医がいました。産婦人科を開業し、産婆学校を設立した宮川久平の母です。江戸後期の蘭方医宮川月海を父にもつ勢以は、弘化2年（1845）14歳のときから20年余り、父について医学を学びます。群馬の医師渡辺起庵を婿に迎え、嘉永4年（1851）頃から中浜で共々開業していました。

夫の起庵が亡くなった後、明治14年（1881）50歳の勢以は、新潟県令宛に「医師御免許願」を提出します。このまま廃業するのも心苦しいので免許をくださるようお願いしたい、と申し出たのです。新潟県下にまだ女医が存在しない時代のこと。県下初の女医とされる山家たか（古志郡宮原村）が開業試験に合格したのは明治29年。それより15年も先行した勢以の免許願は受理されませんでした。しかし、この届出には中浜村の衛生委員渡辺栄順と戸長田代為輔の署名があることから、医師としての勢以の存在が村にとって重要であったことがうかがえます。

近年、全医師数に占める女性医師数の割合は増加傾向にあり、医学部入学者・国家試験合格者に占める女性の割合は約3分の1だといわれます。女性だからこそできること、女性ならではの活躍が期待されています。

（協力／早川美奈子さん）



宮川勢以から新潟県令に宛てた「医師御免許願」（明治14年3月26日）

女性が活躍する職場づくりに取り組む ハッピーパートナー企業を応援します

2016年の「女性活躍推進法」施行から女性の活躍が積極的に掲げられてきました。女性活躍推進法での企業の取り組みで重要なことは、女性も男性も安心して働ける環境を作ることです。

市では、女性の活躍推進を図ることを目的として、女性従業員のために職場環境を改善する中小企業等に最大40万円を助成しています。

例えば・女性向けキャリア研修の外部講師謝金
・就業規則改正のための専門家への相談料
・女性専用トイレや更衣室設置に必要な工事費など
かかった経費の3分の2以内を助成します（助成限度額40万円）。

対象者は、ハッピー・パートナー企業として新潟県に登録している市内で事業活動を行う企業、法人、団体又は個人事業主です。

応募については、先着順で、予算枠に達した時点で受付は終了となります。対象となる企業や経費には、それぞれ条件があります。

ご利用になりたい場合は、詳しい内容を柏崎市産業振興部商業観光課へご確認の上、お申し込みをお願いします。

（柏崎市人権啓発・男女共同参画室）

あとがき

コロナウイルスが大流行し思うように外出もできず、ストレスも溜まっているのではないのでしょうか。



さらに、人間関係もぎくしゃくしたものになりがちです。こんな時だからこそ、思いやりやさしさがじんときます。みんなが「お互いさま!」で助け合い、生活していかなければならないと思います。

（Y.N）

こちらからご覧いただけます

— 柏崎市ホームページ —



市民会議
会員募集



あいむ柏崎
バックナンバー

